

施策評価シート (平成23年度の振り返り、総括)

作成日 平成24年 04月 06日

施策 No.	4	施策名	治水対策の推進
主管課名	建設課	電話番号	0285-83-8149
関係課名	都市計画課、区画整理課、環境課、農政課、安全安心課、下水道課、長田区画整理指導室		

施策の対象	・河川と雨水幹線 ・河川流域の住民及び財産								
対象指標名	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	26年度見込
河川数	本				8	8	8	8	8
雨水幹線数	本				20	20	20	22	22
流域面積	平方 km				167.21	167.21	167.21	167.21	167.21

施策の意図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川整備の促進</li> <li>・雨水幹線の整備推進</li> </ul>								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川と雨水幹線の整備率</li> <li>・(河川と雨水幹線整備計画に対する整備率)</li> </ul>								
成果指標名	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	26年度 基本計画目標値
河川改修率	%				88.2	83.4	83.4	83.4	88.2
雨水幹線の整備率	%				88.3	88.3	88.3	76.9	88.9

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	河川と雨水幹線の整備は行政の役割である。
-------------------------	----------------------

23年度の 評価結果	<p>1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）</p>
	<p>(1) 施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）  平成23年度の雨水幹線整備率は、76.9%で前年度と比較して11.4%減少した。  これは、第一工業団地内の松山町浸水解消事業のため、平成23年3月に雨水計画区域を拡大し、雨水幹線2路線を追加したことから、全体整備計画延長が増加したためです。</p> <p>(2) 近隣他市との比較  公共下水道雨水整備率は、48.3%で県内14市中1位、2位は下野市で48.1%、3位は宇都宮市で35.8%、14市平均の整備率は20.0%である。本市は、土地区画整理事業が進んでいるため、整備率が高いと考えられる。</p> <p>(3) 住民期待水準との比較  市民意向調査によると「雨水のはけ具合が良いと感じている市民の割合」は平成21年度は63.2%、平成22年度は60.5%、平成23年度は57.9%と、年々低下している。要因としては、近年、異常気象によるゲリラ豪雨等の発生により、一時的に雨水排水能力の低下により、道路冠水等の被害が影響していると考えられる。（市内道路冠水箇所10箇所）</p>
	<p>2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内を流れる国管理の鬼怒川、小貝川、県管理の江川、行屋川、大久保川、市管理の井頭川及び西川は、整備水準に差異はありますが、現在の計画による整備率は100%である。</li> <li>・県管理の五行川は、真岡市街地部を約70cm掘り下げる計画があるが、実施時期は未定であり、現在の整備率は48.1%である。</li> <li>・五行川二宮遊水地は、平成4年度から整備事業に着手し、右岸側A池11haの整備が平成19年度に完了し、現在は左岸側B池29haの整備を実施している。整備率は、A池100%、B池73%で、全体で81%である。</li> <li>・長田第5排水区の雨水管渠整備を実施している。</li> <li>・高間木第2排水区で、調整池Aの整備が完了し、調整池B・Cの整備に着手した。</li> <li>・江川第2幹線（八木岡・伊勢崎雨水調整池）の整備が完了した。</li> <li>・第1工業団地内の道路冠水解消のため、松山町第1雨水幹線整備に着手した。</li> <li>・亀山北土地区画整理事業地内で、歩道部の透水性舗装を実施している。</li> </ul>

3. 施策の課題認識と改革改善の方向

- ・ 五行川の遊水地等の河川整備を促進する。
- ・ 雨水幹線の整備は継続して実施する。
- ・ 第1工業団地内の松山町浸水解消事業を推進する。
- ・ 雨水流出抑制型施設の設置を推進する。
- ・ 森林、水田の自然保水機能を維持していく。

23年度の  
評価結果

補足事項